

## ITL NEWS

No.50

## われわれは Web 授業をどのように捉えていたか

## 1. まえがき

教育・学修支援センター 副センター長 沖 裕貴

これまで3回に渡り実施してきた学生対象のアンケート調査を俯瞰すると、Web 授業に対する学生の満足感や希望は、当初予想していたよりも高いということが分かりました。春学期末の授業アンケートでは、総合的満足感が72%（「満足した」＋「ある程度満足した」の合計）に達し、秋学期途中の調査では、今後の講義科目や外国語科目に対して80%以上のWeb 授業を希望する層が講義科目で43.4%、外国語科目で47.1%と、講義や外国語科目で対面授業を80%以上望む層の13.6%、18.2%を大きく上回っています。Web 授業の満足感が70%を超えるという傾向は、2021年1月20日に開催された全国私立大学FD連携フォーラム（JPFF）の懇談会企画において、全国の中規模以上の私立大学でも同様に報告されていますし、今後もWeb 授業を希望する学生がかなり多いというのも共通した動向のようです。

これらの背景には、①自分や家族へのコロナ感染に対する危惧、②特に繰り返し視聴できるVOD授業における学習の深まりやタイムマネジメントのしやすさ、③教員が一方的に話す従来の対面講義に対する不満、④学生自らのWeb 授業への親和性（適性）などが挙げられると思います。特に講義科目に対して、VODと比してその教育効果に目を向ける指摘は、この1年間、Web 授業を経験した学生の大きな進歩の証と言えるかもしれません。

一方、本学を含め、関東に比べ比較的コロナ感染者数が少ない関西では、次年度、対面授業の比率増加を方針として掲げる大学が主流を占めています。学費を負担する保護者からの大きな声に加え、文部科学省からも対面比率を上げるよう指示がなされているからです。また、本学の約三分の一の学生からも全面Webでは「友人ができない」「自宅や下宿で一人授業を受け、課題を提出する生活は肉体的、精神的に苦しい」「大学生活の授業以外のメリットを享受できない」という強い不満が聞かれました。大学としてはコミュニティ形成にかかる大学の重要な役割を保障するために、一定割合で授業を含めた対面でのキャンパスライフを確保するという判断をせざるをえません。

今後は対面とWeb 授業が混合して推移するなかで、適切に学生の実態や実感を調査しながら、対面授業、Web 授業のそれぞれの進め方、融合や結合の方法などを検討する必要があるかと思います。特にグループワークなどのアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を、対面とWebで同時に行うことは可能か、また、従前の教員が一方的に話す講義を事前にVODで学習し、対面では討議を中心に据える反転学習に切り替えることは可能かなど、新たな試行や挑戦が求められることになると考えます。それには教える側に従前の対面授業以上の負担がかかることと、それを覚悟した上で、大学は学生の学びを大切にしている決意であることを、ぜひ学生、保護

者にも知っていただきたいと思います。また、教員の多くが決して楽をして Web 授業を行っているのではないことを、多くの皆様方に理解していただければ幸いです。

## 2. 春学期アンケートの報告 (5～6月実施) 教育・学修支援センター 藤本 学

COVID-19 感染拡大に伴い実施した Web 授業の実態や学生の実感を明らかにするために、春学期アンケートを5月19日～25日（Ⅰ期）と5月26日～6月3日（Ⅱ期）の2回に分けて実施しました。回答者は14,332名で全対象者の41%でした。アンケートは(1) Web 授業の活動形態、(2) Web 授業に対する要望、(3) Web 授業を受けた感想、(4) Web 授業の受講環境に対して、6件法で回答する形式でした（受講環境については複数選択式）。

**Web 授業における活動形態（表 2-1; 数値が高いほど実施されていた）** 非同期型の活動形態（「授業動画やスライドを視聴する」、「文献や資料を読む」、「課題を提出する」、「小テストに答える」）の実施率が高く、同期型の活動形態（「リアルタイムで Web 授業を受ける」、「受講者間で話し合いやワークをする」、「Web 授業で発表する」、「担当教員と質疑応答する」）の実施率が低い傾向が見られました。ただし、「課題を提出する」を除く全ての形態でⅡ期がⅠ期を上回っていたことから、同期型の活動形態は時間の経過とともに増加していったと推察できます。特に、「リアルタイムで Web 授業を受ける」と「Web 授業で発表する」の増加が顕著でした。

**Web 授業に対する活動要望（表 2-2; 数値が高いほど望む）** 学生は「授業動画やスライドを視聴する」、「担当教員と質疑応答する」、「課題や小テストの結果を返してもらう」ことなどを望んでいました。一方、同期型の活動形態（「リアルタイムで Web 授業を受ける」、「受講者間で話し合いやワークをする」、「Web 授業で発表する」）はあまり望んでいませんでした。また、これらの傾向はⅠ期とⅡ期で大きな差はありませんでした。

**Web 授業に対する感想（表 2-3; 数値が高いほどそう思う）** 全体的に、Web 授業に対してある程度満足していたことが確認されました。また、全ての項目でⅡ期がⅠ期を上回っていたことから、時間の経過とともに Web 授業に対する満足感は向上し、戸惑いや不安、負担感は軽減していったこととなります。

**Web 授業の受講環境** 約3割の学生が「インターネットへの接続環境」、「集中して受講できる場所の確保」、「受講に関わる資料を印刷する手段」に問題を抱えていました。ただし、「環境で困っていることがある」と回答した学生はⅠ期（35%）からⅡ期（29%）にかけて減少したことから、各種の支援策により環境面での困りごとが徐々に解消されていったことが確認されました。自由記述で指摘された困りごとの中で、教員側の工夫により解消される問題としては、「配信された資料の印刷の負担」、「資料や連絡の配信の仕方や時間帯」、「授業時間の大幅な超過」、「課題の量」、「適切な指示の不足」、「教員の連絡先が分からず質問できない」などが挙げられます。

表 2-1. Ⅰ期とⅡ期の授業における活動

| 項 目                | Ⅰ 期  | Ⅱ 期  |
|--------------------|------|------|
| リアルタイムで Web 授業を受ける | 2.92 | 3.29 |
| 授業動画やスライドを視聴する     | 4.72 | 4.83 |
| 文献や資料を読む           | 4.63 | 4.76 |
| 課題を提出する            | 5.98 | 5.96 |
| 小テストに答える           | 4.42 | 4.56 |
| 受講者間で話し合いやワークをする   | 2.20 | 2.62 |
| Web 授業で発表する        | 1.97 | 2.38 |
| 担当教員と質疑応答する        | 3.06 | 3.26 |
| 課題や小テストの結果を返してもらう  | 3.13 | 3.48 |

表 2-2. Ⅰ期とⅡ期の Web 授業に対する要望

| 項 目                | Ⅰ 期  | Ⅱ 期  |
|--------------------|------|------|
| リアルタイムで Web 授業を受ける | 3.21 | 3.24 |
| 授業動画やスライドを視聴する     | 4.68 | 4.49 |
| 文献や資料を読む           | 3.81 | 3.85 |
| 課題を提出する            | 3.72 | 3.66 |
| 小テストに答える           | 3.72 | 3.67 |
| 受講者間で話し合いやワークをする   | 3.25 | 3.32 |
| Web 授業で発表する        | 2.51 | 2.72 |
| 担当教員と質疑応答する        | 4.07 | 4.01 |
| 課題や小テストの結果を返してもらう  | 4.84 | 4.74 |

表 2-3. Ⅰ期とⅡ期の Web 授業に対する感想

| 項 目                | Ⅰ 期  | Ⅱ 期  |
|--------------------|------|------|
| Web 授業に満足した        | 3.36 | 3.62 |
| 学習への意欲が喚起された       | 3.28 | 3.45 |
| 受講に不安やとまどいを感じた     | 3.72 | 3.42 |
| 授業の分量に負担を感じた       | 3.09 | 3.06 |
| 課題や小テストに負担を感じた     | 3.30 | 3.29 |
| 先生と円滑に質疑応答することができた | 3.27 | 3.43 |
| Web 授業に孤独を感じた      | 2.70 | 2.47 |



### 3. 春学期授業アンケートと教員アンケートの報告 (7～8月実施)

教育・学修支援センター 藤本 学

2020 年度春学期における Web 授業の実施状況と各授業における受講生の学びの状況を把握するために、春学期授業アンケートを 7 月 7 日～8 月 23 日に実施しました。回答者は延べ 131,023 名(受講者数ベース)で、全対象者の 43% が参加しました。アンケートは (1) 基本 6 項目、(2) 分量適切性、(3) Web 活用適切性、(4) 総合満足感に対して、5 件法で回答する形式でした。また、教員アンケートを 8 月 3 日～24 日に実施しました。回答者は 1,757 名で、全対象者の 66% (対象授業は 3,449、全授業の 69%) がアンケートに参加しました。アンケートは (1) Web 授業中の活動、(2) 学生理解の認識、(3) 学生参加度の認識に対して、5 件法で回答する形式でした。

#### 春学期授業アンケート (表 3-1; 数値が高いほどと思うなど質問に応じた肯定的評価)

**基本項目** 授業アンケートの基本 6 項目を前年の 2019 年度春学期の結果と比較したところ、「授業外学習時間」は増加していましたが、それ以外の項目は若干低下していました。これは Web 授業に伴う課題の増加とともに、授業動画の視聴など教室で行っている活動の代替行為を「授業外」と捉える学生が一定数存在していたことが、その理由であると考えられます。

**分量の適切性** 授業内容・課題ともに「適切であった」が 60% を占め、平均値も 5 段階で 3.46 でした。ただし、「多かった」および「やや多かった」という回答も授業内容で 38%、課題で 36% 見られたことから、Web 授業では課題や小テストの分量が増加する傾向にあることが伺えます。

**Web 活用適切性** 教員が Web を適切に活用できていたかについて、「そう思う」および「ある程度そう思う」が 70% に上り、平均値も 3.85 でした。よって、春学期を通して見ると、教員は短期間で Web 授業に概ね対応できていたことが確認されました。

**総合満足感** 「満足した」および「ある程度満足した」が 72% に上り、平均値も 3.89 でした。よって、春学期を通して見ると、概ね学生が満足しうる Web 授業を提供できていたことが確認されました。

表 3-1. 2019 年度 (対面) と 2020 年度 (Web) の春学期授業アンケート

| 項 目        | 2019 | 2020 |
|------------|------|------|
| シラバス遵守度    | 4.45 | 4.28 |
| 授業外学習時間    | 1.96 | 2.82 |
| 学習意欲の促進    | 4.00 | 3.91 |
| 能動的学習態度    | 4.14 | 4.03 |
| 到達目標達成度    | 3.89 | 3.78 |
| 学び役立ち度     | 4.23 | 4.10 |
| 授業内容の分量    | —    | 3.48 |
| 課題や小テストの分量 | —    | 3.46 |
| Web の活用方法  | —    | 3.85 |
| 総合満足感      | —    | 3.89 |

#### 教員アンケート (表 3-2; 数値が高いほど行った)

**Web 授業における教育活動** 「頻繁に行った」および「かなり行った」が多かった活動は、文献や資料の提示 (80%、4.30)、課題の提示 (61%、4.47)、メールや掲示板を通した質疑応答 (66%、3.76) でした。一方、「ほとんど行わなかった」が多かった活動は、オンラインの授業 (55%、2.41)、授業動画の提示 (46%、2.74)、小テスト (45%、2.76)、受講者間での話し合いやワーク (55%、2.28)、リアルタイムの質疑応答 (55%、2.36) でした。5～6 月実施の春学期アンケート (表 2-2) と比べると増加しているものの、リアルタイム形式や VOD 形式による Web 授業が十分に実施されていたとは言えない状況であったことが確認されました。

**学生理解度の認識** 「そう思う」および「ややそう思う」が 75% を占めており、教員は多くの学生が Web 授業の内容を理解できていたと認識していました。

**学生参加度の認識** 「そう思う」および「ややそう思う」が 79% を占めており、教員は学生が Web 授業に積極的に参加していたと認識していました。

表 3-2. Web 授業における教育活動

| 項 目                  | 教員   |
|----------------------|------|
| リアルタイムでオンライン授業を行った   | 2.41 |
| 授業動画やスライドを提供した       | 2.74 |
| 文献や資料を提示した           | 4.30 |
| 課題を示した               | 4.47 |
| 小テストを出した             | 2.76 |
| 受講者間で話し合いやワークをさせた    | 2.28 |
| メールや掲示板で受講生と質疑応答した   | 3.76 |
| オンラインで受講生と質疑応答した     | 2.36 |
| 課題や小テストの結果をフィードバックした | 3.86 |

## アンケートデータの詳細分析

**Web 授業の類型化（表 3-3; 数値が高いほど行った）** Web 授業の実施形態は、「リアルタイム型」、「VOD 型」、「資料・課題提示型（フィードバック頻度大）」、「資料・課題提示型（フィードバック頻度小）」、「課題のみ提示型（フィードバック頻度大）」、「少課題型」の 6 タイプに分けられました。

表 3-3. 6 タイプの Web 授業における教育活動

| 項 目                  | リアルタイム | VOD  | 資料課題<br>FB 大 | 資料課題<br>FB 小 | 課題のみ<br>FB 大 | 少課題  |
|----------------------|--------|------|--------------|--------------|--------------|------|
| リアルタイムでオンライン授業を行った   | 4.25   | 1.16 | 1.29         | 1.07         | 1.28         | 2.28 |
| 授業動画やスライドを提供した       | 2.76   | 4.88 | 1.37         | 2.54         | 2.52         | 2.87 |
| 文献や資料を提示した           | 4.53   | 4.88 | 4.91         | 4.93         | 1.73         | 3.79 |
| 課題を示した               | 4.77   | 4.90 | 4.93         | 4.84         | 4.52         | 2.35 |
| 小テストを出した             | 2.28   | 3.34 | 3.03         | 1.75         | 3.64         | 2.35 |
| 受講者間で話し合いやワークをさせた    | 3.34   | 1.18 | 2.01         | 1.09         | 1.62         | 1.75 |
| メールや掲示板で受講生と質疑応答した   | 4.01   | 4.16 | 3.87         | 2.83         | 3.64         | 2.91 |
| オンラインで受講生と質疑応答した     | 4.15   | 1.22 | 1.17         | 1.28         | 1.34         | 1.96 |
| 課題や小テストの結果をフィードバックした | 4.17   | 4.39 | 4.45         | 1.83         | 4.21         | 2.66 |

**科目種別ごとの実施形態（表 3-4; 数値が大きいほど実施比率が大きい）** 科目種別によって Web 授業の実施形態に特徴があることが明らかになりました。科目種別に関わらず実施されていたのは、上から「リアルタイム型」、「資料・課題提示型フィードバック頻度大」、「少課題型」の順でした。以上を基本に、講義系科目では「VOD 型」（17%）も多く見られました。一方、外国語科目では「少課題型」の代わりに、「VOD 型」と「課題のみ提示型（フィードバック頻度大）」が多く見られました。演習や実習などの小集団科目は概ね全体の傾向に沿うものでしたが、「リアルタイム型」が半数以上を占めていました。

表 3-4. Web 授業の 6 タイプの科目種別実施比率

| 項 目   | リアルタイム | VOD | 資料課題<br>FB 大 | 資料課題<br>FB 小 | 課題のみ<br>FB 大 | 少課題 |
|-------|--------|-----|--------------|--------------|--------------|-----|
| 科目全体  | 34%    | 13% | 21%          | 8%           | 9%           | 15% |
| 講義系科目 | 26%    | 17% | 20%          | 13%          | 5%           | 19% |
| 外国語科目 | 35%    | 14% | 24%          | 1%           | 21%          | 5%  |
| 小集団科目 | 53%    | 2%  | 17%          | 5%           | 2%           | 21% |

**Web 授業タイプと授業アンケート（表 3-5; 数値が高いほどそう思うなど質問に応じた肯定的評価）** 全て対面形式で行われた 2019 年度春学期授業の結果と比較すると、6 種類全てのタイプで、対面授業に比べ予習復習の時間が増加していました。また、分量の負担感は微増に留まりました。ただし、対面授業に比べると全てのタイプで受講満足感が低下しており、「資料・課題提示型（フィードバック頻度小）」で顕著でした。一方、Web 授業の実施形態の中では、「リアルタイム型」と「VOD 型」は対面形式と比べ大きな遜色はありませんでした。

表 3-5. 6 タイプの Web 授業の授業アンケート結果

| 項 目        | リアルタイム | VOD  | 資料課題<br>FB 大 | 資料課題<br>FB 小 | 課題のみ<br>FB 大 | 少課題  | 2019 |
|------------|--------|------|--------------|--------------|--------------|------|------|
| シラバス遵守度    | 4.44   | 4.35 | 4.29         | 4.22         | 4.31         | 4.27 | 4.45 |
| 授業外学習時間    | 2.95   | 2.88 | 2.98         | 2.94         | 2.89         | 2.67 | 1.96 |
| 学習意欲の促進    | 4.20   | 4.05 | 3.97         | 3.89         | 3.95         | 3.99 | 4.00 |
| 能動的学習態度    | 4.33   | 4.16 | 4.10         | 3.98         | 4.10         | 4.09 | 4.14 |
| 到達目標達成度    | 3.97   | 3.86 | 3.82         | 3.77         | 3.82         | 3.84 | 3.89 |
| 学び役立ち度     | 4.35   | 4.22 | 4.13         | 4.12         | 4.07         | 4.18 | 4.23 |
| 授業内容の分量    | 3.45   | 3.50 | 3.48         | 3.47         | 3.50         | 3.34 | —    |
| 課題や小テストの分量 | 3.46   | 3.51 | 3.53         | 3.49         | 3.54         | 3.29 | —    |
| Web の活用方法  | 4.19   | 4.00 | 3.72         | 3.71         | 3.82         | 3.95 | —    |
| 総合満足感      | 4.19   | 4.01 | 3.86         | 3.82         | 3.89         | 3.99 | —    |

## 4. 秋学期学生アンケートの報告 (11月実施) 教育・学修支援センター 藤本 学

秋学期開講1カ月経過時点における学生の授業受講の実態とその受け止めを明らかにするために、秋学期アンケートを2020年11月2日～11月15日に実施しました。回答者は4,035名で、全対象者の13%が参加しました。アンケートは(1)春学期のWeb授業の振り返り、(2)講義科目・外国語科目の実感(受講比率・受講満足感・希望比率)、(3)演習・実習・実験科目の実感(受講比率・受講満足感・希望比率)、(4)Web授業の実感(授業形態・フィードバック・総合負担感)に対して、主に5件法で、ただし希望比率は6件法(表4-2参照)、受講比率は7件法(6件法+受講していない)で回答する形式でした。

**春学期Web授業の振り返り(表4-1; 数値が高いほど満足している/重かった)**「満足している」または「ある程度満足している」と回答した学生は46%、負担感を「重かった」または「やや重かった」と回答した学生は67%でした。7～8月に実施した春学期授業アンケートの結果(総合負担感「授業内容の分量」と「課題や小テストの分量」の平均値)と比べると、満足感が微減、負担感が微増していました。その理由として2つのことが考えられます。ひとつは、科目ごとの評価である授業アンケートとは違い、秋学期学生アンケートは春学期を総括する形式であることです。すなわち負担感が著しく高く満足感が著しく低い一部の科目の存在が印象に残り、学生の総合的な評価に影響を及ぼした可能性があります。もうひとつの可能性は、個々の授業の負担感が少しずつ重かったことが積み重なり、毎週の学習活動の負担が大きくなっていったというものです。

表4-1. 7～8月時と11月時の春学期Web授業の評価

| 項目           | 7～8月 | 11月  |
|--------------|------|------|
| 春学期の授業の総合満足感 | 3.89 | 3.13 |
| 春学期の授業の総合負担感 | 3.47 | 3.80 |

**直近1週間に受講した授業比率**「半分程度以上対面授業を受講している」と回答した学生は「講義科目」で14%、「外国語科目」で9%であるのに対し、「演習・実習・実験科目」では対面80%以上が約40%を占めていました。比較的少人数の演習・実習・実験科目では、積極的に対面授業が行われていたことが確認されました。

**直近1週間に受講した授業の総合満足感**「ある程度満足している」または「満足している」と回答した学生は、講義科目で54%、外国語科目で51%と半数に留まりました。一方、「小集団科目」(演習・実習・実験科目)では66%と、満足が不満足をやや上回っていました。

**希望する対面/Web比(表4-2; 数値が大きいほど実施比率が大きい)**「講義科目」では25%の学生が「全てWeb授業」を希望していました。また、「外国語科目」では「全てWeb授業」を希望する学生が35%に上った一方で、「80%以上対面授業」が18%と二極化していました。そして、「小集団科目」では「80%以上対面授業」が42%に上りました。自由記述には対面授業を支持し希望する意見とWeb授業を支持し希望する意見が、どちらも多数寄せられています。

表4-2. 科目種別の希望する対面/Web授業比率

| 項目                 | 講義  | 外国語 | 演習等 |
|--------------------|-----|-----|-----|
| ほぼ全て対面授業(対面80%以上)  | 14% | 18% | 42% |
| 大半は対面(対面60%以上)     | 11% | 9%  | 14% |
| 半分程度は対面(40%以上)     | 17% | 12% | 12% |
| ある程度は対面(対面20%以上)   | 15% | 13% | 8%  |
| ほぼすべてWeb授業(対面1%以上) | 18% | 12% | 8%  |
| すべてWeb授業(対面0%)     | 25% | 35% | 16% |

**フィードバック** 秋学期において、「ほぼ全てのWeb授業」または「大半のWeb授業」で適切なフィードバックが行われたと回答した学生は46%を占め、平均値は4.06でした。よって、多くの授業で適切なフィードバックが行われていたことになります。ただし、自由記述から、フィードバックのないWeb授業に対して、多くの学生が不満を感じていたことが分かります。適切なフィードバックが十分に行われていないWeb授業が依然として存在しています。受講満足感の高いWeb授業のポイントは、課題や小テストに関するフィードバックにあることを肝に銘じなければなりません。

**Web授業の負担感** 秋学期のWeb授業の負担感について、「適度だった」と回答した学生は40%であった一方、「重かった」または「やや重かった」と回答した学生は48%と二極化していましたが、平均値は2.56に留まりました。よって、春学期と比べると負担は軽減されていたことになります。



## アンケートデータの詳細分析

**受講満足感を高める要因（図 4-1 左部）** 対面授業をより多く受講し、また Web 授業では負担を感じつつもしっかりとフィードバックをしてもらっている学生ほど、受講満足感が高いことが明らかになりました。

**対面の受講希望を高める要因（図 4-1 右部）** 対面授業を多く受講していても現状に不満を抱いている学生ほど、今後さらに対面授業を増やしてほしいと望んでいることが明らかになりました。

**負担感とフィードバック（図 4-1）** Web 授業は対面授業に比べて学生の負担が大きくなりますが、必ずしも悪いわけではありませんでした。それは、春学期・秋学期ともに Web 授業への負担感が高いと総合的な満足感も高い傾向にあったからです（春学期  $r=.310$ 、秋学期  $r=.317$ ）。これは Web 授業ではインタラクションやワーク、レポート作成などを課すことにより、学生に適度な負荷を与えるのが望ましいことを示唆しています。ただし、ただ課題を出せばよいというわけではありません。負担感が大きい Web 授業が受講生に満足感を与えるためには、「適切なフィードバックを返す」ことが不可欠であることに留意しなければなりません。

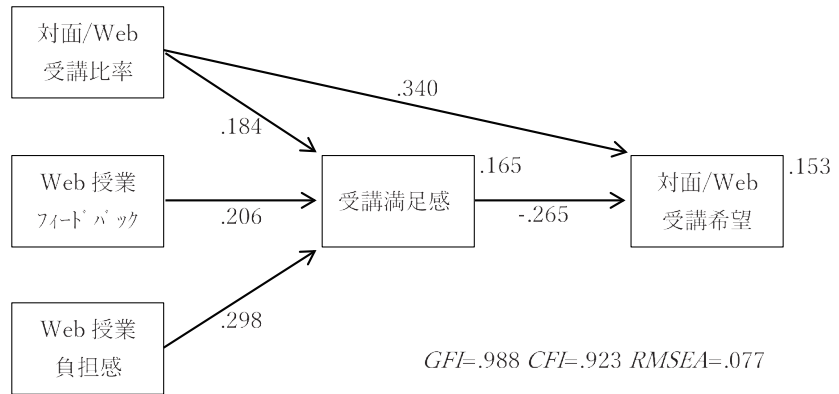


図 4-1. アンケート指標の関係性を表すモデル

| 2020年度にセンターが関わってきたWeb授業支援                    |  |
|--|--|
| <b>Web授業実施に向けた相談対応</b>                       | 授業の構成やコンテンツ作成の相談対応を、教育学習支援センターの教員が行った。また、臨時職員を雇用し、Web授業実施に関わる「サポートデスク」を開設した。   |
| <b>Web授業支援サイトの開設</b>                         | 授業設計や各種マニュアルなどの下記コンテンツからなるWeb授業支援サイトを、教育開発支援機構のサイト内に開設した。  |
| <b>新任教員に対するFD</b>                            | 新任教員を対象に、Web授業の設計・Zoomを授業で活用する方法・本学のLMSであるmanaba+Rの利用方法などについて説明を行った。また、3キャンパス対応でFD懇談会を2回開催し、新任教員のWeb授業に対する不安の払拭や方法論に関する情報提供を行った。 |
| <b>教学実践フォーラム</b>                             | 3回にわたり、Web授業の実践経験やグッドプラクティスの共有を目的とするフォーラムを実施した。  |
| <b>Web授業運営におけるオンラインサロン</b>                   | 教員の不安や負担感を減らすことを目的に、WEB授業を実施した教員が抱える悩み、不安、課題等の共有、ちょっとした工夫をすることで誰でも簡単に悩みや課題が解決できることの事例紹介、全学でのアンケート調査における回答傾向の共有などを座談会形式で実施した。     |
| <b>教養科目授業実施に向けたオンライン相談サロン</b>                | 夏休み中に秋学期に向けた、冬休みに2021学期教養科目授業のシラバスの執筆に向けた相談等をオンラインサロンの形式で実施した。   |
| <b>授業実施モデルと使用ツール</b>                         | 授業における各種ツールの実施モデル、使用ツールの一覧、カメラ設備およびPanoptoの活用事例をまとめなどを教職員に向け公開した。  |
| <b>Web 授業に対する学生アンケートの結果報告会</b>               | 春学期（6月）と秋学期（11月）に実施した学生アンケートの結果（特に自由記述）より、Web 授業に対する評価を紹介した。   |
| <b>Zoomを用いたライブ配信型授業の講習会</b>                  | 初級編と中級編に分け、ライブ配信型授業をされる教員を対象に、これまでの授業サポートで蓄積したFAQを踏まえ、Zoom や教室内カメラの操作と活用事例の説明、および実践例・具体的な授業展開について共有した。                           |
| <b>Panopto（動画作成・配信システム）を用いたオンデマンド型授業の講習会</b> | 初級編と中級編に分け、オンデマンド配信型授業をされる教員を対象に、これまでの授業サポートで蓄積したFAQを踏まえ、Panopto の操作、活用事例、学生の視聴行動の把握の説明、および実践例・具体的な授業展開の共有を行った。                  |
| <b>新常態（new normal）における高等教育の展望に関するシンポジウム</b>  | 本シンポジウムとして、高等教育に精通した国内外の著名な識者に登壇いただき、「新常態における高等教育の展望」を語って頂いた。  |
| <b>Web授業に関する教員アンケートおよび学生アンケート</b>            | 「授業受講実態」「受講感想」「学生の要望」などを明らかにするために、6月・春学期末・11月に3度アンケート調査を実施した。  |